

ドクターシェアリング プラットフォーム

りーばー LEBER

株式会社AGREE

代表取締役 伊藤 俊一郎



提案の背景

スマホで気軽に医師に相談できる。これが当たり前の時代をつくります。国の方針で病院が減少していく今、医療相談アプリ「LEBER」で医師と患者の距離を縮め、日本の未来と皆さんの命を守ります。

緊急性の低い軽症者が病院を受診し、重傷者が実際に救急車を呼んでも、たらい回しに合うといった事が実際に起きており、ICTによる医療の効率化が必要不可欠であると考えます。病院にかかる前に医師がスマホを利用しアドバイスする事で、コンビニ受診を抑制し、また逆に気軽に医師に相談でき重症化する前に早期発見・早期治療につなげるため、社会保障費を大きく削減可能です。さらに医師が市販薬を勧めるという革新的なアイデアによりセルフメディケーション推進に貢献します。

実験の内容・結果

目的

- ①市民への無料体験
- ②体験者からの開発事項の募集
- ③つくば市内ウェルシアにてセルフメディケーション啓蒙活動

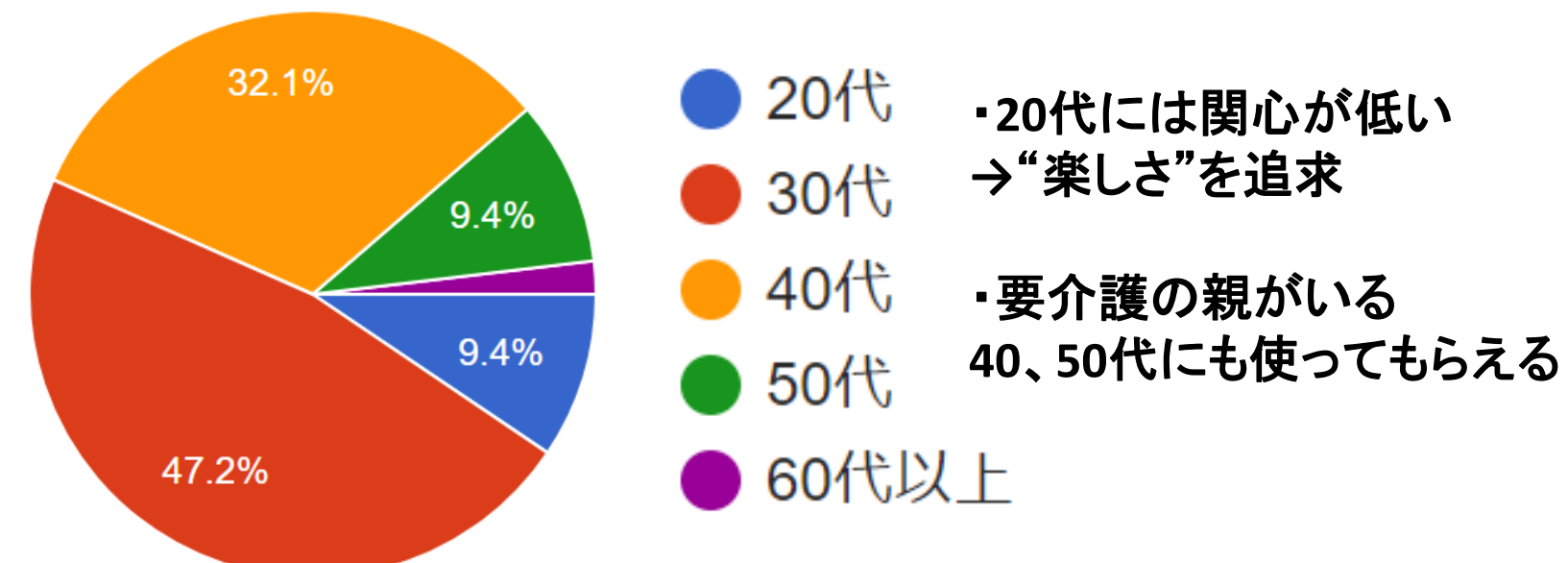
方法



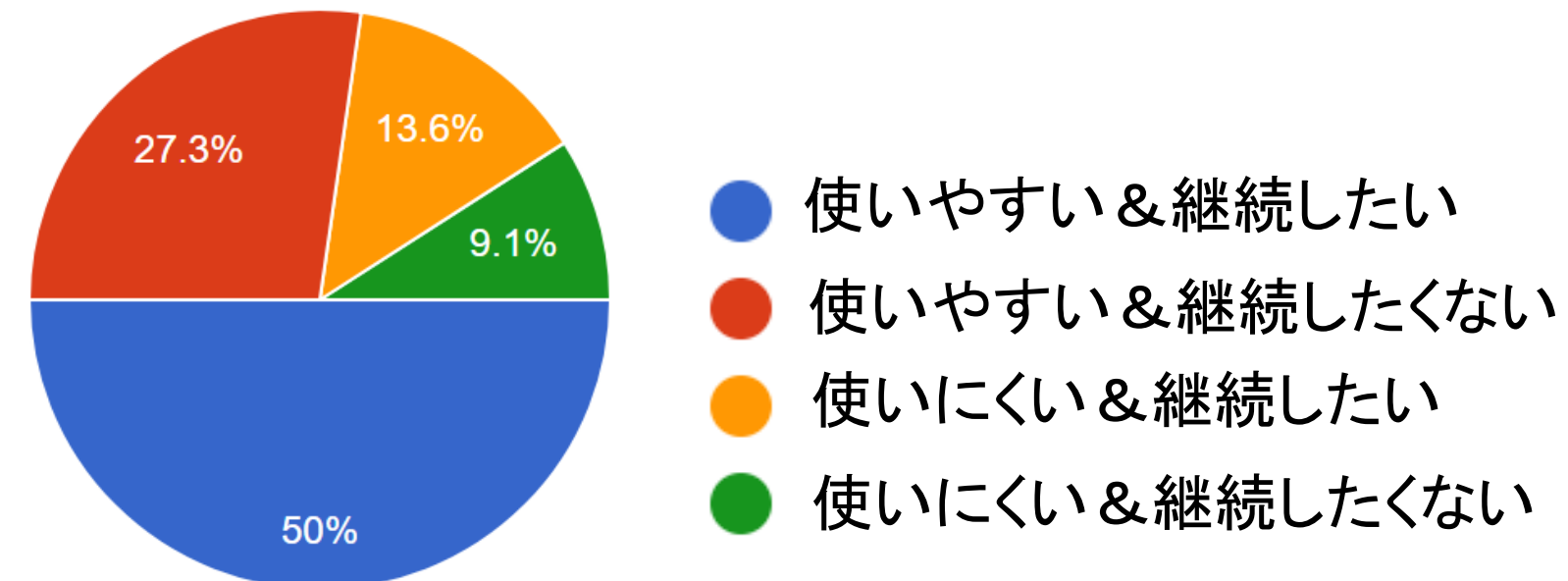
アプリ使用後にアンケートに回答してもらった

結果

(N-53) 子育て世代にニーズが多い



UIの向上が不可欠



開発提案

- ・回答は早いですが、医師からの回答の質の向上をして欲しい。
 - ・ユーザーが医師から欲しい回答を選択できるようにして欲しい。
 - ・顔写真と実名だけでなく、医師の詳細なプロフィールが知りたい。
- ・様々な開発アイデアを収集することができた。
- ・今回のトライアルで認知度が高まった。また公立保育園など公的機関にも認知度を広げる事ができた。

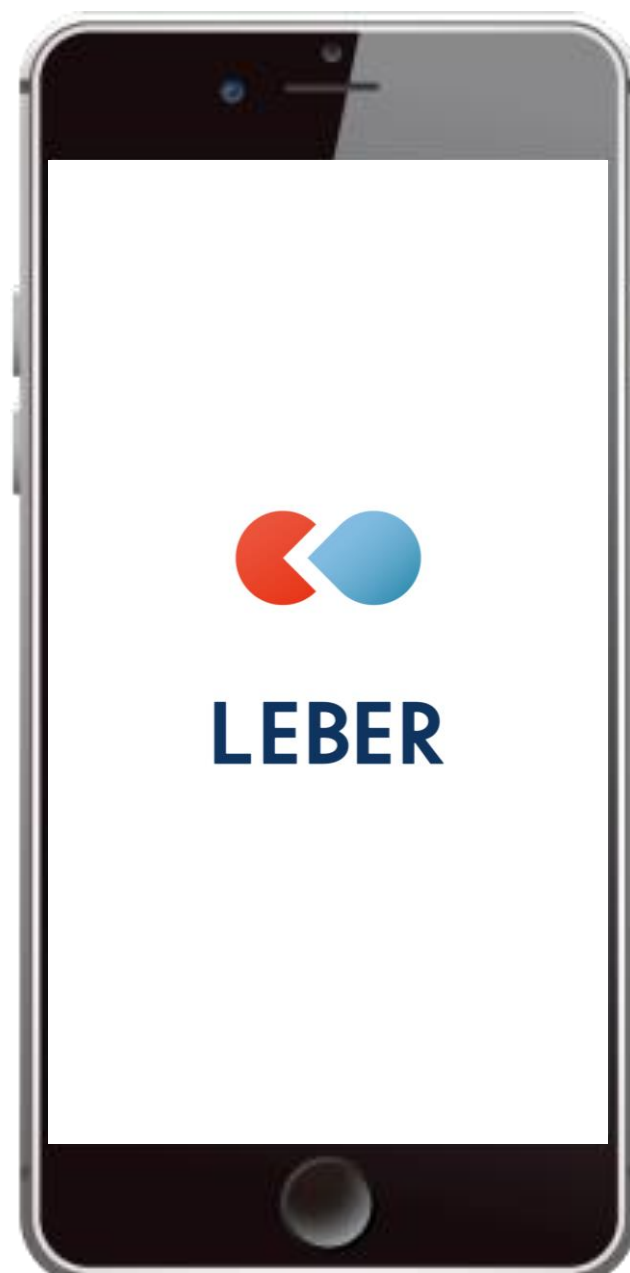
感想

4つの医療機関、15の組織で導入決定

今後の展望

アプリ利用の効果

- 医療の効率化**
「家で安静に」などセルフケアの可能性を提示することで不急不要の受診を緩和する。
- セルフメディケーションの推進**
症状毎の市販薬を推奨することで、ヘルスリテラシーを向上させ医療費高騰を抑制する
- 早期発見・早期治療**
いつでも医師と相談できる環境にて体調不良に対して迅速に対応し、重症化を予防する。



実現する未来社会

**国民全員に最適な医療を届けられる
日本社会**

1. 高騰する医療費の抑制
2. ヘルスリテラシーの向上
3. 健康経営企業の生産性の高い労働者による業績向上
4. AI導入による最適な医療アドバイスによる健康増進

平成29年度つくば市Society 5.0社会実装トライアル事業